

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	こうべしりつふきあいこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
26～30	①学校名	神戸市立葺合高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際科	244名
国際科	80	80	84		244	普通科	674名
⑥研究開発構想名	神戸から綾なせ世界。共生への扉を開くグローバル・リーダー育成						
⑦研究開発の概要	国際科の生徒を対象に、「子供」をキーワードとして「世界の共生」のために人権・環境・経済の視点から学習し、活動を通してグローバル・リーダーの育成を目指す。その方策として「四大陸高校生サミット」を開催して共同提言を発信し、その実現のためにNPOを立ち上げて活動を継続する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>葺合高校が育成を目指すグローバル・リーダーとはゆるぎない「MAK^マKS^ス」（M：人間力 A：実践力 K：知識力 S：言語力）を持った人材であり、それを実現させるために16の力を身につけさせることを目的とする。そこで、「世界の共生そして未来を担う子供たちのために何ができるか」を考え、「綾なせ世界、ひらけ共生～あしたを担う子供たちのために～」を合い言葉に、「子供」をキーワードとして「世界の共生」のために自分たちがなすべきことを人権・環境・経済問題の各視点から考察する。たとえば「子供の教育を受ける機会と権利の提供」のテーマで課題研究を行い、活動を通して意識を高め、3年次には「四大陸高校生サミット」を主催し、世界の共生のための持続可能な提言を発信し、その実現のためにNPOを立ち上げ、活動を継続することを目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>これまでの国際理解教育や国際交流の実績を積み重ね、英語での高いコミュニケーション能力の育成を行ってきた。生徒の実態調査から、論理的に思考し説明する力、事実からその背景や原因を探究し解決策を見つける力、日本や世界各国の文化・歴史についての知識が十分に深められていないことがわかった。さらに、それらの知識を総合して思考し判断する総合的な思索力も不足している。このような現状を打開し、グローバル・リーダーの資質を育てるには、次のような方策が必要であるという仮説を設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地歴・公民科、英語科、国語科を中心に様々な教科が分野横断的に携わることで、幅広い知識を多角的な視点から学習し、論理的な思考力を身につけることができる。 2. 企業インターンシップや海外でのフィールドワーク、各講演会やセミナーなどに参加することで、世界との距離を縮め、言語力と実践力を養うことができる。 3. 各コンテストに積極的に参加し、それぞれのスキルのより一層の向上を図り、中心的な役割を果たす経験を重ねて的確な判断力と全体を牽引する実行力を培う。 <p>(3) 成果の普及</p> <p>本校はこれまでも姉妹校への短期海外研修や台湾への修学旅行、海外の高校とのTV会議など、グローバル人材育成に努めてきた。また、普通科でのSELHiの実施後、その取組は現在も継続して行われている。また、毎年国内外からの視察団を受け入れ、国際科を有する高等学校としての高い発信力を有している。今回のSGH事業の取組では、これまでの人材育成をさらに深化・発展させ、よりグローバルな感覚を持ちグローバル・リーダーとして活躍できる国際科の生徒が育つと考える。また、海外での実践的な活動を行うために、「国際化を目指す大学」への進学に興味関心を抱いてくれる生徒も増えるものと思われる。そして、国際科を中心とした取組が学校全体に広がり、普通科の生徒にとってもグローバルシティズンとしての意識が芽生えることを期待している。</p>					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「子供」をキーワードとして「世界の共生」を目指した取組になるように、「世界の共生～あしたを担う子供たちのためにできること～」をテーマに「人権」「環境」「経済」の観点から、課題研究に取り組む。具体的なテーマ例としては、「災害復興時に子供たちが教育を受ける機会と権利の提供」、「子供たちにとって、より良い水環境の実現」、「子供たちにふりかかる貧困をはじめとする『南北問題』解決」等の課題が挙げられる。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説に基づいた課題研究 Global Studies (以下GS) A～Cを設定する。Aは「知識を深め、それらを多角的、多面的に結びつける能力を育成する」ことを目的とし、全員履修の科目とする。Bは「種々の知識を活かした判断力、表現力、実践力などを育成する」ことを目的とし、これも全員履修の科目とする。Cは「広い視野を持ち、主張と協調のバランス感覚に富んだリーダーシップを育成する」として選択履修の科目とする。 ・国際科 80 名を人権・環境・経済の問題別グループに分け、さらにグループ内を4チーム(5～6名)に分けて調査・研究を行う。 ・連携先の神戸市外国語大学、関西学院大学の教職員の講演や指導助言を受ける。 ・P&Gへのインターンシップや社会貢献の取組についてワークショップ形式で学ぶ。 ・JICAから世界各地で活動した人材を派遣してもらっての講演会や国際協力体験セミナー等に参加する。 ・各問題グループ内のチーム代表(2名×4チーム×3グループ)を海外でフィールドワークを経験させ、実態の報告や改善点を把握させる。 <p>検証評価として、学校設定科目として作った「GS」各科目の評価とともに、つきたい「16の力」ごとに評価規準を設定してアンケートや発表、ポートフォリオなどで評価していく。また、事業全体の評価指標に基づいた自己・外部評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンでのフィールドワーク：1年生がマニラのアジア開発銀行やそのプロジェクトを視察し、現地のNPOと交流しながら、援助活動に加わることで、開発途上国の現状を知り、国際援助と開発問題について考察する。子供をテーマに「人権」「環境」「経済」の観点から、それぞれの課題研究に取り組む。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の1単位を減じて「GS1A」を設定 ・教科「英語」の1年の「総合英語」1単位を減じて「GS1A」を設定、2年の「総合英語」2単位を減じて「GS2B」を設定
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 グローバル・リーダー育成の基礎知識、スキル修得のために、全教科に分野横断型の関わりを持ちながら、各科目の中で取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合英語」「時事英語I」などで、コミュニケーション能力、ディベート、プレゼンテーションの基礎と実践を経験する。 ・「国語総合」で論理的思考を身につけ、情報を様々な角度から検証する力をつける。 ・「コンピュータリテラシー」では情報収集やプレゼンテーションのための情報機器の扱い方やソフトの活用を学ぶ。 ・「日本文化紹介」で日本の文化を学習・考察し、海外の生徒に発信する経験をする。 <p>検証評価については教科の評価規準に基づき評価を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報の科学」の1単位を減じて、「コンピュータリテラシー」を教科「情報」に設定 <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 学校行事の中で新入生オリエンテーションワークショップを実施 b. 課外活動として「GSS(グローバルスタディーズササエティ)研究会」の創部 c. 授業外の学習支援システムの確立 d. グローバル・リーダー人材育成のための部署の新設(SGH推進委員会) e. 学校ホームページの充実としてグローバル・リーダー育成などに関するページの作成、本校ホームページ英語版の拡大
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>